市民の手による平和のためのシンクタンク

ピースデポ
平和資料協同組合
Peace Depot (Peace Resources Cooperative)

会報
No.59
2026.11.15

発行人：鈴木達治郎 / 住所：〒 223-0062　横浜市港北区大豆戸町 1020-5 第 4 西山ビル 304
TEL：045-633-1796/FAX：045-633-1797/E-mail：office@peacedepot.org
郵便振替：00250-1-41182　特定非営利活動法人ピースデポ
銀行口座：横浜銀行日吉支店 普通 1561710　特定非営利活動法人ピースデポ

軌道に乗り始めた新事業と新たな課題

代表　鈴木達治郎

戦争が継続し、法の秩序が崩れ兼ねない国際情勢、日本の非核政策の根本が揺らぎかねない国内の政治情勢。2026年もまもなく年末を迎えますが、核兵器廃絶や軍事にたよらない安全保障をめざす私達にとっては、まさに混乱と逆境の1年でした。

ピースデポは、新たな長期ビジョンに基づき、今年度からいくつかの新規事業を始めました。その活動が少しずつ軌道に乗り始めてきましたが、課題も見えてきました。その要点をいくつか紹介したいと思います。

1. 脱軍備・平和情報モニター（DP Information Monitor）：AIやネット情報を活用して、平和・核問題に関する一次情報を、できるだけタイムリーにお知らせすることを目的としたこのサービスは、2026年2月から、原則月2回更新という頻度でウエブサイトに公開してきました。3月の【イスラエル・米国vsイラン戦争】を皮切りに、5月には【第11回NPT再検討会議】、9月には【第81回国連総会】（3回連続）と、特集企画を続けてきました。ピースアルマナックに掲載する一次情報の選別にも役立つよう、企画をしてきましたので、ピースアルマナックの編集作業の効率化にも役立つと期待しています。

2. 脱軍備・平和レポート：平和への提言 Voice for Peace: 昨年までの機関誌「脱軍備・平和レポート」を再編し、専門家による分析・政策提言を中心としたシンクタンクの機関誌として、5月に第1号を発刊。8月に第2号、11月に第3号と順調に発刊をしてきました。内外の専門家や若い世代からの論考は、多様な意見と建設的な批判・提言として、すでに注目を集め始めています。特集記事のみ、無料で公開し、英文も発行。PDF版に加え、印刷版も発行して、会員以外のかたには500円で販売しております。今後発行部数を増やし、多くの読者に読んでいただけるよう努力します。

3. 脱軍備・平和ダイアログ（DP Dialogue）：従来の基礎講座の延長線上にありながら、形式を対話風に置き換えたDP Dialogueも年4回＋2回特別講座、対面とオンライン（ハイブリッド）という組み合わせで6月から開始。対話重視ということで、対面の会場では円座になって講師と向き合い、記録もとらない形式で自由に発言してもらう雰囲気作りに努めました。会場も、横浜、長崎、広島と全国をまわり、第4回は東京で開催。中東情勢を話題にした特別講座はオンラインで実施しました。会員と学生は無料にしたため、参加者数が増え、活発な意見交換も実現しました。ただ、有料参加者数は伸び悩んでいます。

4. 非核自治体訪問「非核三原則要請」プロジェクト：「非核自治体講演ツアー」を今年度はより趣旨を明確にし、非核三原則堅持を要請する目的の「非核自治体訪問プロジェクト」に変更しました。今年になり、「非核三原則堅持」の決議を行う自治体が増えてきていますが、ピースデポとしては、非核宣言を行っていながら、未だに決議をしていない自治体に焦点を当てることとしました。今年度は、11月に神奈川県の横須賀市、藤沢市、秦野市を訪問して、要請書を提出することができました。

このように、新規事業は軌道に乗り始めてはいますが、残念ながら、まだこれらの活動が寄附の拡大や新会員の増加にはつながっていません。上記の新規事業により多くの皆様に参加していただき、ピースデポの活動の理解者・応援者が増えていくよう努めます。会員皆様のご協力をお願いいたします。

活　動　報　告

横須賀ピースフェスティバルに出店

（2026 年 10 月 18 日、横須賀市役所前公園 ）

渡辺洋介（ピースデポ事務局長）

ピースデポは 10 月 18 日、恒例の「横須賀ピースフェスティバル」に出店しました。例年は海岸沿いの三笠公園が会場ですが、大規模改修工事のため昨年に続き市役所前公園での開催となりました。海風による寒さに悩まされることの多いこのイベントですが、今年は気候変動の影響か日差しが強く、日中は少し汗ばむほどの陽気でした。

ブースでは、年鑑『ピース・アルマナック』や機関誌『Voice for Peace』のほか、湯浅理事の農園で収穫された柿や芋を販売し、合計 1 万円強を売り上げました。また、同フェスティバルは普段なかなか顔を合わせる機会のない理事や会員と語り合える貴重な場でもあります。今回も長崎から駆けつけた鈴木代表をはじめ、木元理事、呉東理事、山口理事と直接お会いできたほか、赴任先のマーシャル諸島から帰国した大野ゆかり会員も立ち寄ってくださいました。秋晴れのもと、野外でゆっくりと交流を深める良い一日となりました。



団体ブースでピースデポの書籍を販売するスタッフ。左から鈴木、高木、湯浅、渡辺、山口、木元の各氏。

「非核三原則の堅持を政府に求める」申し入れ ―横須賀市・藤沢市・秦野市を訪問

（2026 年 10 月 19 ～ 20 日）

ピースデポは 2026 年 10 月 19 日（月）と 20 日（火）、神奈川県の横須賀、藤沢、秦野の各市役所を訪れ、それぞれの市長に対し、自らの非核宣言に掲げる「非核三原則の堅持」を日本政府へ求めるよう申し入れを行いました。

2026 年末の安保三文書改定を進める高市政権が非核三原則の堅持を明言していないことから、「持たず、作らず、持ち込ませず」のうち「持ち込ませず」が見直されるのではないかという危惧が広がっています。これを受け、高市政権の発足後、全国の地方議会では非核三原則の堅持を政府に求める決議が相次いで採択されており、神奈川県内でも 33 市町村のうち 15 の市町村で採択されました（10 月 17 日時点）。

今回の要請は、県内でこうした議会決議が未採択でありながら、自治体の非核宣言で「非核三原則の堅持」を明記している 3 市を対象に実施したものです（なお、藤沢市議会では訪問直前の 10 月 9 日に「非核三原則の尊重と堅持を求める意見書」が採択されました）。

今回の各市訪問にあたっては、横須賀市では新倉裕史さん、藤沢市では山中悦子さんと脇礼子さん、秦野市では高橋紀代子さんにご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。



小川聖子・横須賀市市長室交流推進担当課長に「非核三原則の堅持を政府に求める」要望書を手渡す鈴木達治郎代表（2026 年 10 月 19 日、横須賀市役所）



中山良平・藤沢市副市長に「非核三原則堅持を政府に求める」要望書を説明する鈴木達治郎代表（2026 年 10 月 20 日、藤沢市役所）

[報告] 2026年度 脱軍備・平和ダイアログ

渡辺洋介（ピースデポ事務局長）

2026年6月から10月にかけて、昨年までの「脱軍備・平和基礎講座」を刷新した「脱軍備・平和ダイアログ」を全4回開催しました。「戦争の時代に向き合う」を全体テーマに掲げ、講演時間を短くして参加者との対話・議論に重きを置いた形式へと変更しました。各回の内容から、特に印象に残った点をご紹介します。

・第1回講座（6月6日／港北公会堂・オンライン併用）

元内閣官房副長官補の柳澤協二さんを招き、「戦争を避ける道筋を考える」と題してお話しいただきました。長年の現場経験に裏打ちされた含蓄ある言葉の数々が心にしみました。



第3回講座に登壇する（左から）田中美穂、レベッカ・マリア・ゴールドシュミット、司会の役重善洋の各氏（2026年10月24日、広島市まちづくり市民交流プラザにて）

・第1回特別講座（8月2日／オンライン）

「中東情勢から考える日本外交の今後」をテーマに、千葉大学名誉教授の栗田禎子さん、元外務省国際情報局長の孫崎享さんが登壇しました。栗田さんによる中東近代史の概説は、現在の情勢を理解するうえで大変貴重な機会となりました。

・第2回講座（9月12日／長崎原爆資料館・オンライン併用）

長崎文化放送の志久弘樹さん、鴨川榮二さんによる「戦争・核問題と向き合う―伝え続ける者がいる限り、記憶は風化しない」では、お二人が制作した映像作品も視聴しました。いずれも本質を突いた刺激的な内容で、強烈な印象が残りました。

・第3回講座（10月24日／広島市まちづくり市民交流プラザ・オンライン併用）

「パレスチナと核問題をつなぐ」をテーマに、カクワカ広島共同代表の田中美穂さん、パレスチナ連帯活動家でアーティストのレベッカ・マリア・ゴールドシュミットさんにお話しいただきました。とりわけ、ゴールドシュミットさんによるイスラエルの核武装に関する指摘は興味深く、多くの学びがありました。

道原海子・元理事を偲ぶ

梅林宏道（ピースデポ特別顧問）

ピースデポの元理事・道原海子さんの訃報は、2026年8月10日、ご子息からの電話によって事務所に届いた。すでに葬儀等も済ませたとのことであった。

理事になって頂いたのは2002年2月であったが、それから5期、10年にわたり、2012年2月まで理事として、揺籃期のピースデポを草の根から支えて頂いた。

道原さんは文学の人であった。私自身、まねごとのような小説を書いたりしていたので、そのような会話をした記憶がある。理事になって頂いた直後の会報に、高濱虚子に触れた素敵な短文を寄せて下さった。人柄が偲ばれるので頭の部分を再録しておきたい。

> ピースデポの事務所は、小さな丘の中腹にある。スタッフの秋山嬢に言わせれば、これは「山」だという。「この坂道がしんどいのよ」と言うのは先輩理事の津留さんだ。
>
> 坂は急とも言えず、緩やかでもない。
>
> 春、坂の下に立つと、事務所は、爛漫と咲く桜の花の夢色のむこうに見えかくれする。異界へと招き入れるような、何か象徴的で、不慣れな坂道が面白く、私はいっとき、顎を上げて、空や樹木を見やる。茫洋として全容の不確かな、あの丘のてっぺんに行ってみたいと思う。思いながら虚子の句をつぶやいた。
>
> 春風や　闘志いだきて　丘にたつ
>
> 高濱虚子40歳。漱石の「吾輩は猫である」が連載された文芸誌「ホトトギス」が200号を数えた年の作。虚子は腸を病み、臥床しがちだった。
>
> ピースデポ事務所への坂道で、虚子の句が口を付いて出てきたのには、前奏がある。今世の大テーマである人間らしさの保存から、遠くなるばかりの昨今の政治状況に、心底からつき上がってくる、じっとしていられないと思うこの傾向を、何と形容したらピッタリくるのか、道々考えていたのだ。これは闘志だと納得したとき、いつか写真で見た虚子の、精悍な面差しが彷彿した。

個人的には理事になって頂く以前から道原さんと交流があった。

もっとも古く記憶にあるのは、ともに三宅島ツアーに参加したときのことである。1996年ころだと思うが、三宅島に米軍基地を作る計画がもち上がった。それに反対する島民運動が起こったとき、連帯する三宅島ツアーが組織され、たまたま私も道原さんもそれに参加した。帰りの船で、私が三宅島の名産である明日葉（あしたば）の苗を持ち帰っていたのを道原さんが見つけて会話を交わした。その明日葉は今も我が家で繁殖して食卓に上っている。

その後も道原さんとの交流は続いた。ピースデポ設立後の2000年頃、彼女は世田谷地域を拠点に三木睦子さん（元三木武夫首相の夫人）、国弘正雄・元参議院議員らを招きながら、北東アジア非核兵器地帯を目指す地域活動のリーダーとして精力的に活動されていた。

メディアに登場したピースデポ

① 安全保障関連３文書の改定に対する鈴木代表のコメントを掲載（中国新聞2026年6月18日）
②鈴木代表が参加した「核兵器禁止条約フォーラム」を報道（長崎新聞2026年8月8日）
③「被爆81年の長崎平和宣言」に対する鈴木代表のコメントを掲載（長崎新聞2026年8月10日）
④「非核三原則」に関する鈴木代表へのインタビュー掲載（神奈川新聞社2026年10月30日）
⑤原子力潜水艦の保有について鈴木代表のコメントを掲載（東京新聞2026年11月4日）



5月発売

「ピース・アルマナック2026」
―核兵器と戦争のない地球へ

監修: 梅林宏道・鈴木達治郎 / 編著: ピース・アルマナック刊行委員会
出版社: 緑風出版　B5判 260ページ

定価3200円
(税別)

【ハイライト―ガザ問題・イラン核施設攻撃】ジェノサイド経済・国連報告書／ジェノサイド認定の国連報告書／ガザ・トランプ和平案／ミッドナイト・ハンマー作戦米ブリーフィング／核施設攻撃：日本政府談話
【戦後・被爆80年】国連創設80年事務総長演説／石破所感／被団協声明／パグウォッシュ会議広島宣言
【巻頭エッセイ】羽場久美子：世界の大転換、先進国危機と戦争―誰が平和をつくるのか
【注目資料】米国家安保戦略／ウクライナ和平案／英仏核協力宣言／高市「存立危機事態」答弁／長生炭鉱遺骨発見
【2025年解題】役重善洋／中村桂子／渡辺洋介／石坂浩一／木元茂夫